

# 遠浅酪農のはじまり

広報あびら1月号の特集は「遠浅酪農」。2021年が「五年」ということもあり、安平町での牛にまつわるエピソードとして取り上げます。

## 安平町が、安平村であったころ

まずは、大正時代のお話。

安平村は、豊富な森林資源をもとに、良質な木炭の産地として名を馳せ、大正中期には全盛を迎えた。しかし、資源には限りがある。次第に枯渇していき、それに伴い、生産量は急激に減少していったようだ。

## 次なる産業を、模索すること・・・

木炭の生産量の減少に伴い、経済にも陰りが見え始めた安平村。当時の安平村長である山田忠次郎氏は、新たな産業の発展を目指すのであった。

安平村が転換期を迎えようとしていたとき、同じく転換期を迎えようとしていた地域があった。それが、滝川村（現在、滝川市）や新十津川村（現在、新十津川町）。この地域は、大規模な開田事業（畑地を水田にするこ

と）が行われる中で、酪農経営の継続が難しくなり、他の地域への集団移住を考えていた。滝川酪農団体の移住先には、勇払原野、天塩の火口地帯、北海道農事試験場早来火山灰地試験地（以下、火山灰地試験地）があった安平村で実地踏査が行われること



北海道農事試験場早来火山灰地試験地の様子。